

教育・研究業績書

<p>診療科名 日光医療センター麻酔科</p>		
<p><教員の紹介></p>		
<p>教 授 緑 川 由 紀 夫</p>		
<p>I 教育活動</p>		
<p>教育実践上の主な業績</p>	<p>年 月</p>	<p>概 要</p>
<p>①□ 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）</p>		
<p>1. BSL（5学年）の病院実習</p>	<p>2007年4月～現在</p>	<p>麻酔科外来診療時の実習では、問診から検査結果の判定、理学所見の見方などを教示した。また、治療時には、実際の神経ブロック施行を説明しながら行った。また、入院患者処置後の症状変化を病室にて談話形式で行った。</p> <p>手術室での実習では、麻酔器の構造などを学び、麻酔時の薬品準備から、モニター設置などを一緒に行動した。</p> <p>全身麻酔導入時には、救急蘇生法に準じた気道確保や人工呼吸を学んだ。</p> <p>勉強会では、麻酔科学業務の中から、学生の興味ある分野を選び、スライドで説明した。そのため、実習のグループにより毎回内容を異にした。</p>
<p>② 作成した教科書、教材、参考書</p>		
<p>ペインクリニック教材の作製</p> <p>1. 痛みの生理</p> <p>2. 診断方法</p> <p>3. 治療方法</p>	<p>2007年4月～現在</p>	<p>麻酔科外来診療の現場を見学したのち、スライドによる説明で学習した。</p>
<p>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</p>		
<p>厚生労働省免疫アレルギー疾患予防・治療 研究事業</p> <p>第11回栃木県ペインクリニック研究会</p> <p>第12回栃木県ペインクリニック研究会</p> <p>第13回栃木県ペインクリニック研究会</p> <p>第15回栃木県ペインクリニック研究会</p> <p>東京新聞</p> <p>栃木テレビ（ヘルスケア）</p>	<p>2005年3月</p> <p>2004年11月</p> <p>2005年11月</p> <p>2006年11月</p> <p>2008年11月</p> <p>2008年8月</p> <p>2009年6月</p>	<p>両下肢RSDより繊維筋痛症に移行した症例を報告した。</p> <p>両下肢RSDの浮腫治療に腰部交感神経節ブロック治療を紹介した。</p> <p>ECTが有効であった繊維筋痛症を報告した。</p> <p>5月開院後半年間のペインクリニック動向を報告</p> <p>交感神経節ブロックの成功と失敗について紹介。</p> <p>「医療者のつぶやき」を掲載した。</p> <p>ペインクリニックについて放映した。</p>

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
日光医療センター麻酔科	教授	緑川 由紀夫	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1982年4月～現在	日本麻酔科学会 正会員		
1983年4月～現在	日本ペインクリニック学会 正会員		
1990年4月～現在	日本shock学会 正会員		
1997年5月～現在	日本shock学会 評議員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. 粕田 晴之、 <u>緑川 由紀夫</u> 、半田 紀子：周術期管理におけるマグネシウム投与。外 須美夫（編）。マグネシウムの基礎と臨床。88-87。真興交易医書出版、東京、2005。			
【原 著】			
和文			
1. <u>緑川 由紀夫</u> ：交感神経節ブロック・成功症例と失敗症例。慢性疼痛 27:105-108, 2008。			
【症例報告】			
和文			
1. 原澤 寛、町田 優、増田 浩之、杉村 浩之、星 俊安、堀江 康人、中野 滋文、押味 寛敏、比企 太郎、 <u>緑川 由紀夫</u> 、中元 隆明：急性肺梗塞の治療中に発症したヘパリン起因性血小板減少症（HIT）の1症例。臨床生理 39:105-109, 2007。			
【総 説】			
【その他】			